大牟田市三池炭鉱歴史資料
デジタルアーカイブ公開記念講座

令和3年10月31日（日）

大牟田市立図書館の地域史料集積とアーカイブ化の意義
～三池炭鉱史料を中心として～

大牟田市　企画総務部
世界遺産・文化財室　山田元樹

1. 大牟田市立図書館が伝統的に地域史料を収集保存してきた意義の確認

2. 特に「三井鉱山五十年史稿」の存在意義の確認

3. 今回の「三池炭鉱歴史資料デジタルアーカイブ」の構成

4. 「 三池炭鉱歴史資料デジタルアーカイブ 」が公開されたことにより期待される効果

図書館法より

（図書館奉仕）
第三条　図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。

– 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルムの収集にも十分留意して、

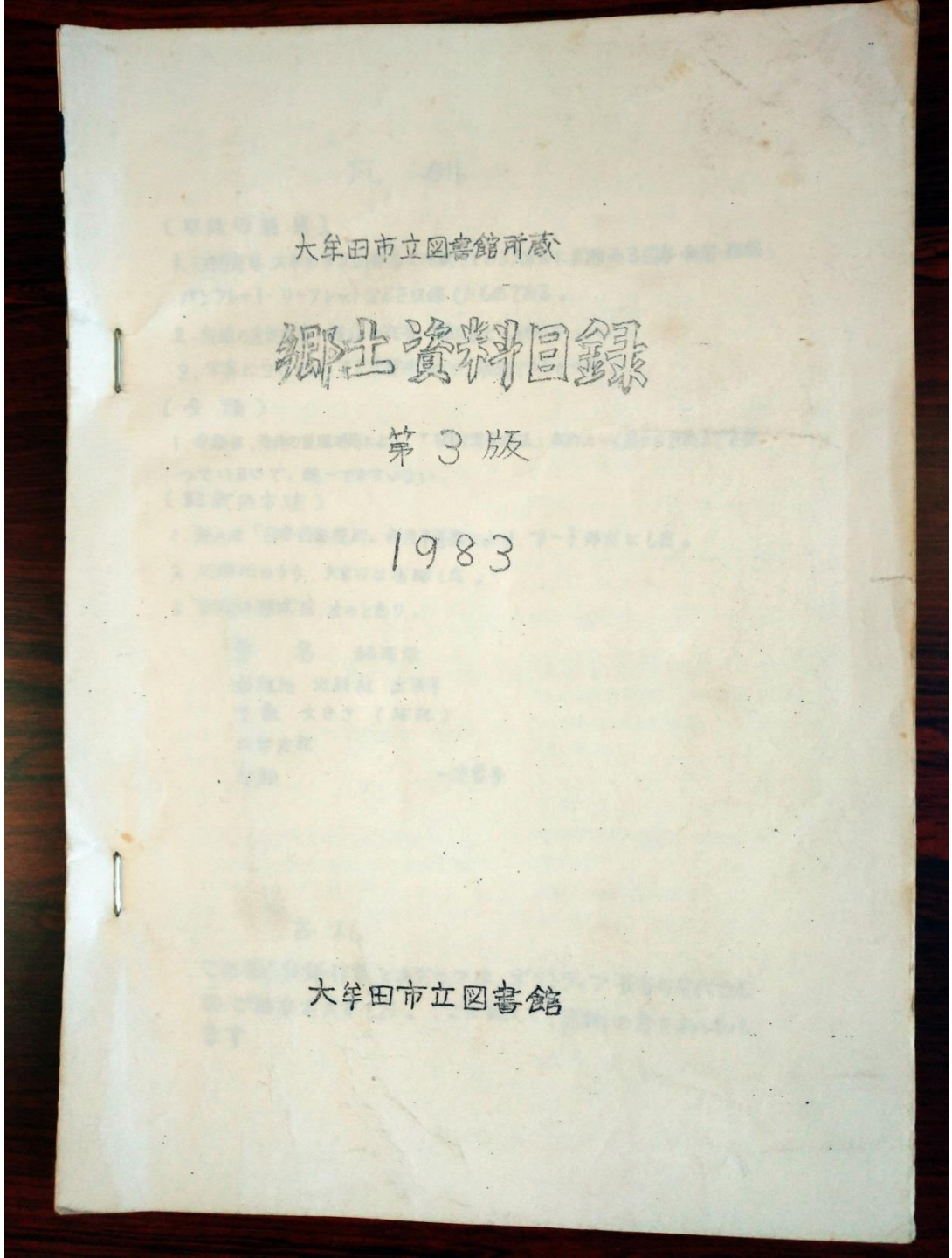
図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「図書館資料」という。）を収集し、一般公衆の利用に供すること。

大牟田市立図書館は伝統的に郷土資料の収集保存、整理活用に力を入れてきた！
全国的にも注目される存在！？

大牟田市立図書館所蔵

郷土資料目録　第3版　1983

第1版：1965年
第2版：1968年
第3版：1983年、400部印刷
掲載資料数：1，745点



大牟田市立図書館所蔵

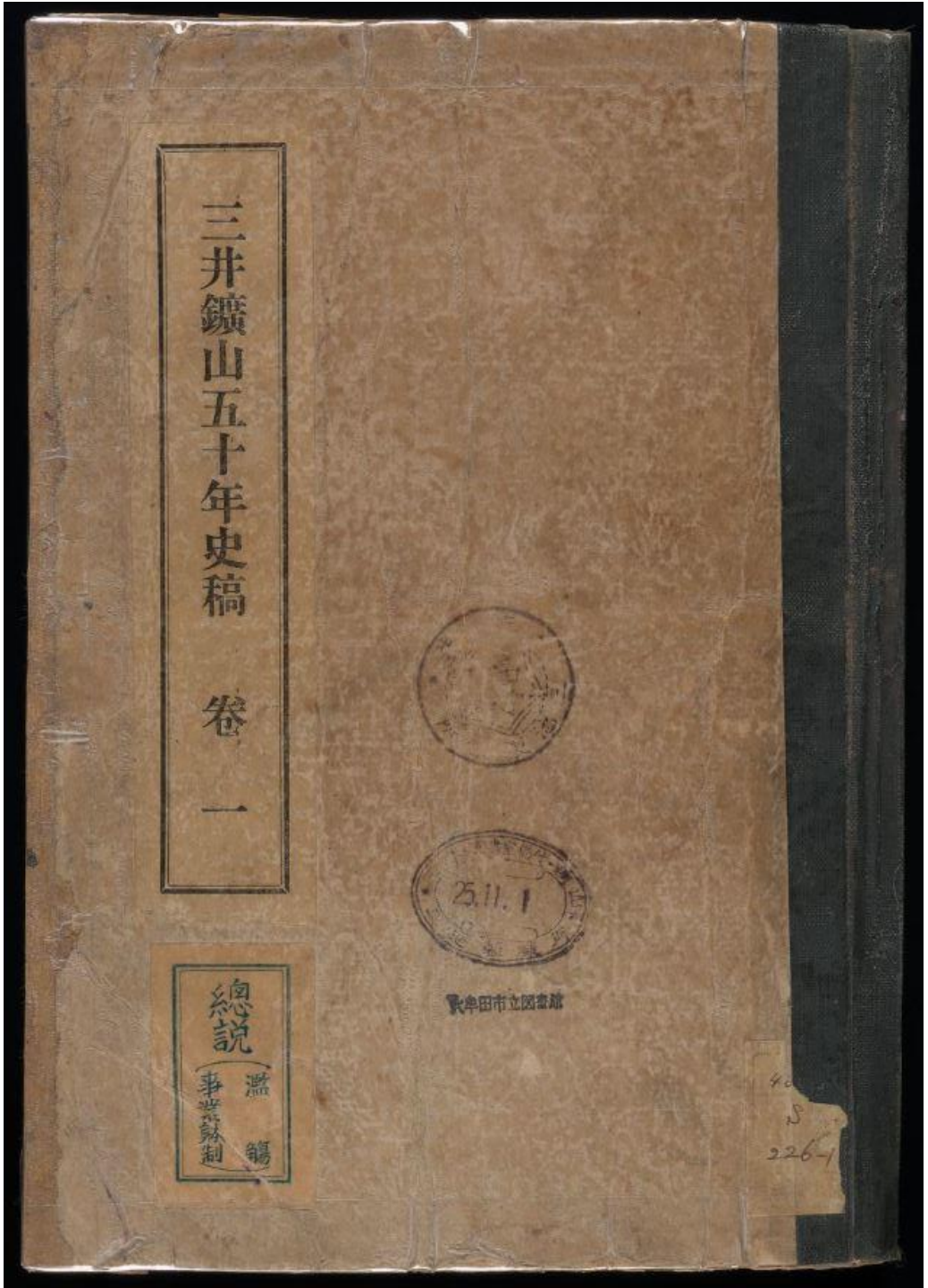
郷土資料目録

第3版

1983

大牟田市立図書館

『三井鉱山五十年史稿』について



三井鉱山株式会社創立五十周年の社史
（但し、印刷刊行には至らず）

明治22年（1889年）に三池鉱山の払い下げを受けた三井組が「三池炭礦社」を設けてから50年＝1939年（昭和14年）を基準年として編纂

三井鉱山株式会社

三井財閥直系3社の一角（三井銀行・三井物産）→三井合名

日本一の大会社　三池は同社の最大事業所＝三井のドル箱

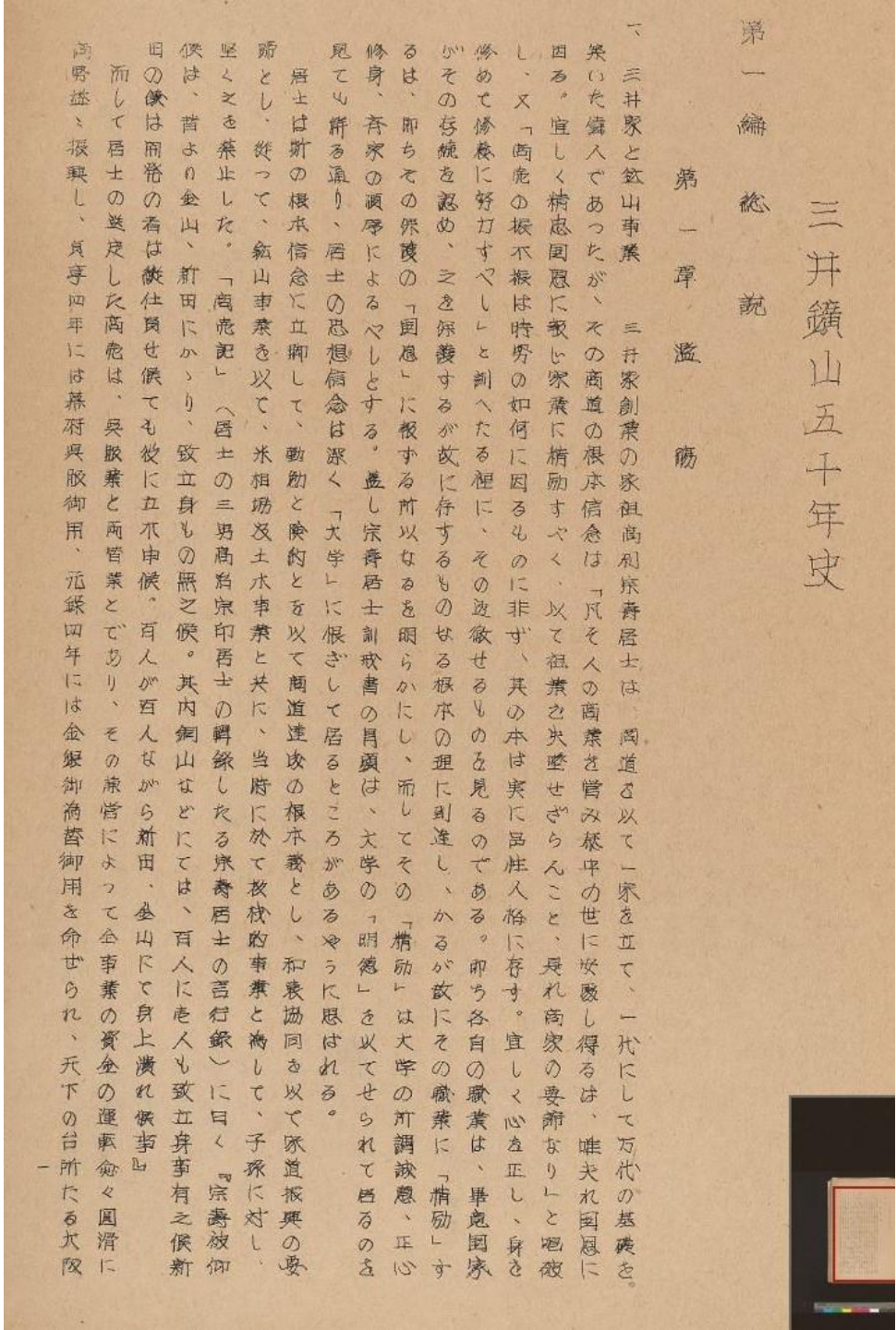
「三井鉱山五十年史稿」には我が国鉱工業近代化の歩みが凝縮されて詰まっている。

しかしながら、稿本のため、一般に目に触れるものではなかった。

まして所蔵することは不可能であった。

←

大牟田市立図書館が収蔵、配架したことは極めて大きな意義があった。



三井鑛山五十年史

第一編　総　説

第一章　沿　革

一、三井家と鉱山事業　三井家創業の家祖高利宗壽居士は、商道を以て一家を立て、一代にして万代の基礎を築いた偉人であったが、その商道の根本信念は「凡そ人の商業を営み基本の世に安處し得るは、唯天れ国恩に因る。宜しく精忠国恩に報い家業に精励すべく、以て祖業を失墜せざらんこと、是れ商家の要諦なり」と喝破し、又「商売の根本振は時勢の如何に因るものに非ず、其の本は実に呂性人格に存す。宜しく心を正し、身を修めて倹約に努力すべし」と説へたる裡に、その返徹せるものを見るのである。即ち各自の職業は、畢竟国家がその存続を認め、之を保護するが故に存するものなる根本の理に到達し、かるが故にその職業に「精励」するは、即ちその保護の「国恩」に報ずる所以なるを明らかにし、而してその「精励」は大学の所謂誠意、正心修身、斉家の順序によるべしとする。蓋し宗壽居士訓戒書の冒頭は、大学の「明徳」を以てせられて居るのを見ても解る通り、居士の思想信念は深く「大学」に根ざして居るところがあるやうに思はれる。

居士は斯の根本信念に立脚して、勤勉と倹約とを以て商道達成の根本義とし、和衷協同を以て家道振興の要諦とし、従って、鉱山事業を以て、米相場及土木事業と共に、当時に於て投機的事業と為して、子孫に対し、堅く之を禁止した。「商売記」（居士の三男高治宗印居士の編録したる宗壽居士の言行録）に曰く『宗壽被仰候は、昔より金山、銀田にかゝり、致立身もの無之候。其内銅山などにては、百人に壱人も致立身者有之候新田の儀は両巻の者は被仕貪せ候ても彼に立不申候。百人が百人ながら銀田、金山にて身上潰れ候事』

而して居士の選定した商売は、呉服業と両替業とであり、その兼営によって金事業の資金の運転愈々圓滑に商勢益々振興し、貞享四年には幕府呉服御用、元禄四年には金銀御為替御用を命ぜられ、天下の台所たる大阪

三井鉱山五十年史稿

【九州】
山野鉱業所沿革史（飯塚）
田川鉱業所沿革史
本洞鉱業所沿革史（直方）
松島炭礦沿革史

【北海道】
三井美唄鉱業所沿革史
芦別鉱業所沿革史
砂川鉱業所沿革史
太平洋炭礦株式会社沿革史
千呂露（ちろろ）鉱山沿革史
塩沢鉱業所沿革史
北海曹達株式会社沿革史
登川炭礦沿革史
北海道硫黄幌別鉱業所沿革史
珊留（さんる）鉱業所沿革史

【外地】
三成鉱業株式会社沿革史（朝鮮）
長津鉱山沿革史（朝鮮）
西珊丹炭坑沿革史（樺太）
川上鉱業所沿革史（樺太）
基隆炭礦沿革史（台湾）

⇧山門炭礦株式会社九州事業所沿革史
⇧東洋高圧大牟田工業所沿革史
⇧三池染料工業所沿革史
⇧三池製作所沿革史
⇧三池港務所沿革史
⇧三池鉱業所沿革史
⇧團琢磨伝記編纂資料
⇧三池鉱山局年報

事業年譜並史料調　談話速記録　保安部沿革史

3. 宮原坑

本坑第一坑ハ當初單ニ試錐孔ヲ通ジ七浦坑内ノ排水ヲナス計畫デアツタガ後竪坑ヲ開イテ疏水ト採炭ノ兩目的ヲ達スルノ良策ナルコトヲ認メ竪坑開鑿工事ヲ起スコトヽナリ(附錄第三參照)明治廿八年二月十一日起工明治廿年三月廿三日着炭明治廿一年三月廿一日ヨリ出炭操業ヲ開始シタ。又第二坑ハ明治廿一年二月廿一日認可ヲ得翌廿二年六月十一日開鑿ニ着手明治廿三年十月七日着炭明治廿四年十一月ヨリ捲揚ヲ開始シタ。

※本史料はアーカイブには含まれません

三池鑛業所沿革史　第三卷　採鑛課一

翻刻文は『新大牟田市史』「資料編」に収録

三井鉱山五十年史稿

地図

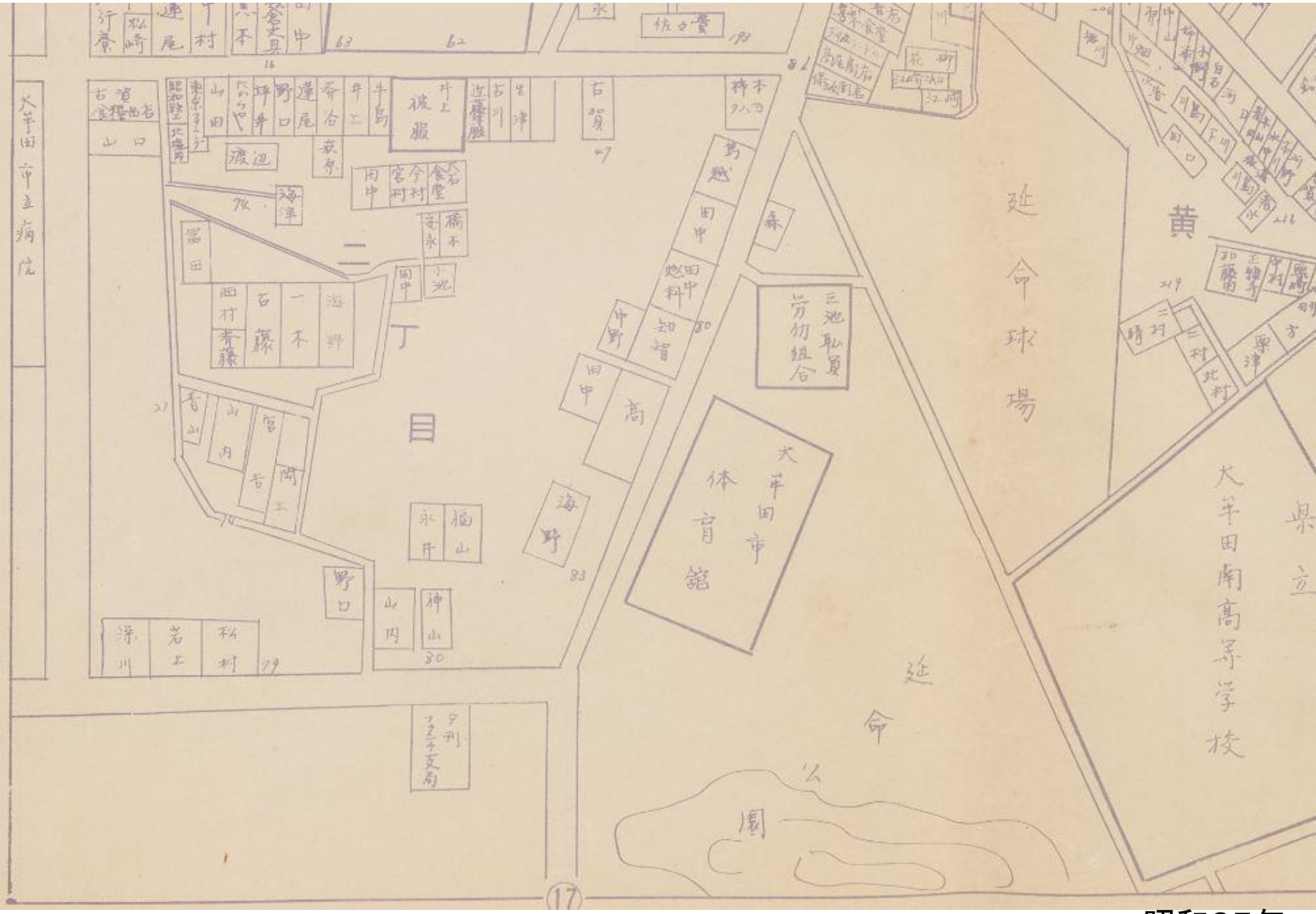
大牟田の絵はがき

人物

三池争議関係資料

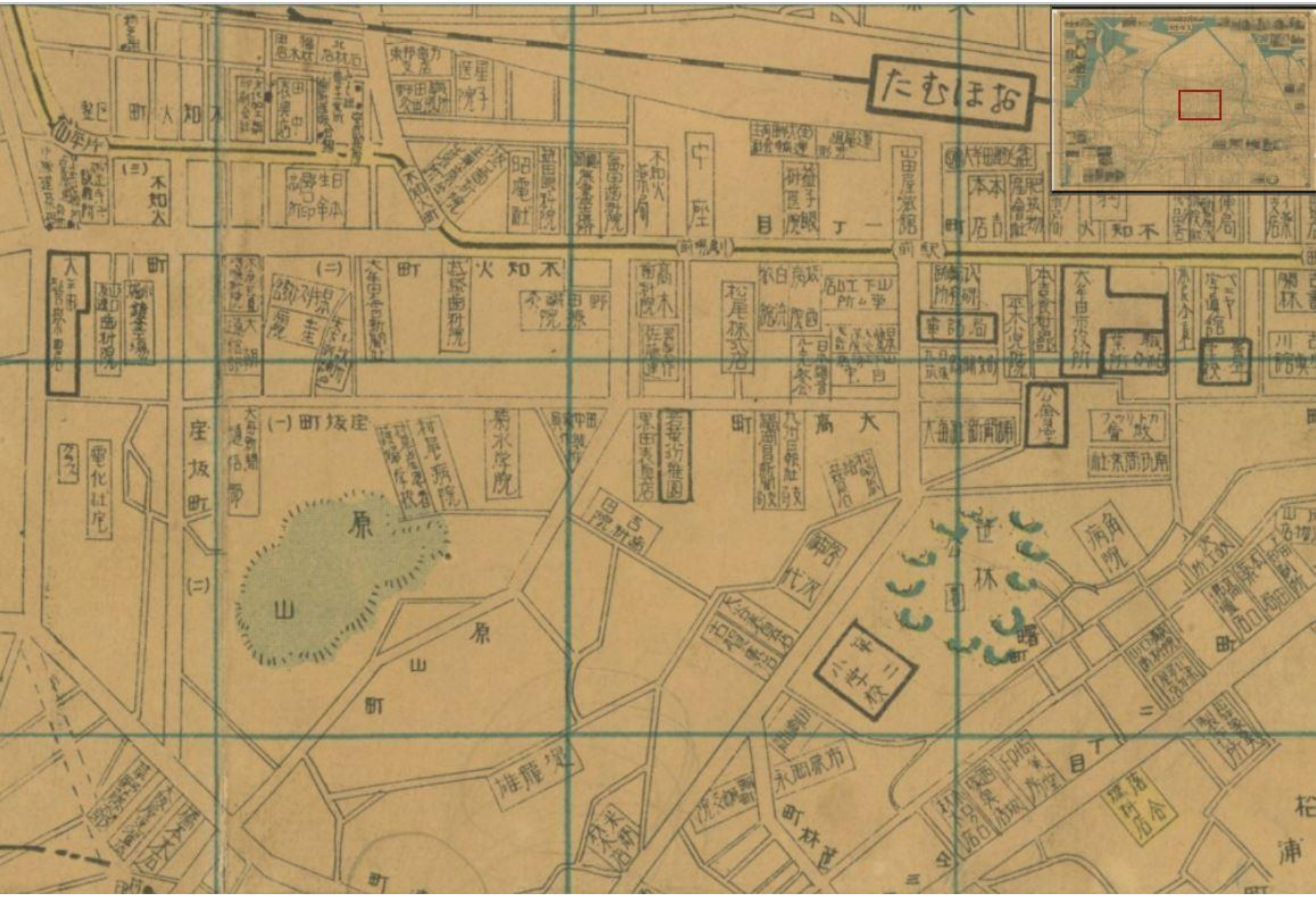
地図

西日本住宅詳細図　附商工名鑑 大牟田市　荒尾市・高田町　改訂第4版 （昭和35年・1960年）
大牟田市最新実測地図　都市計画道路網附記 （昭和4年・1929年）
大牟田市勢便覧（大正13年・1924年） 大牟田市街全図　大牟田市都市計画区域図
大日本職業別明細図　大牟田市　市制二十周年記念 駛馬村・荒尾村（昭和11年・1936年）
大牟田市鳥瞰図（昭和10年・1935年）
大牟田市街地図（昭和7年・1932年）　市勢便覧

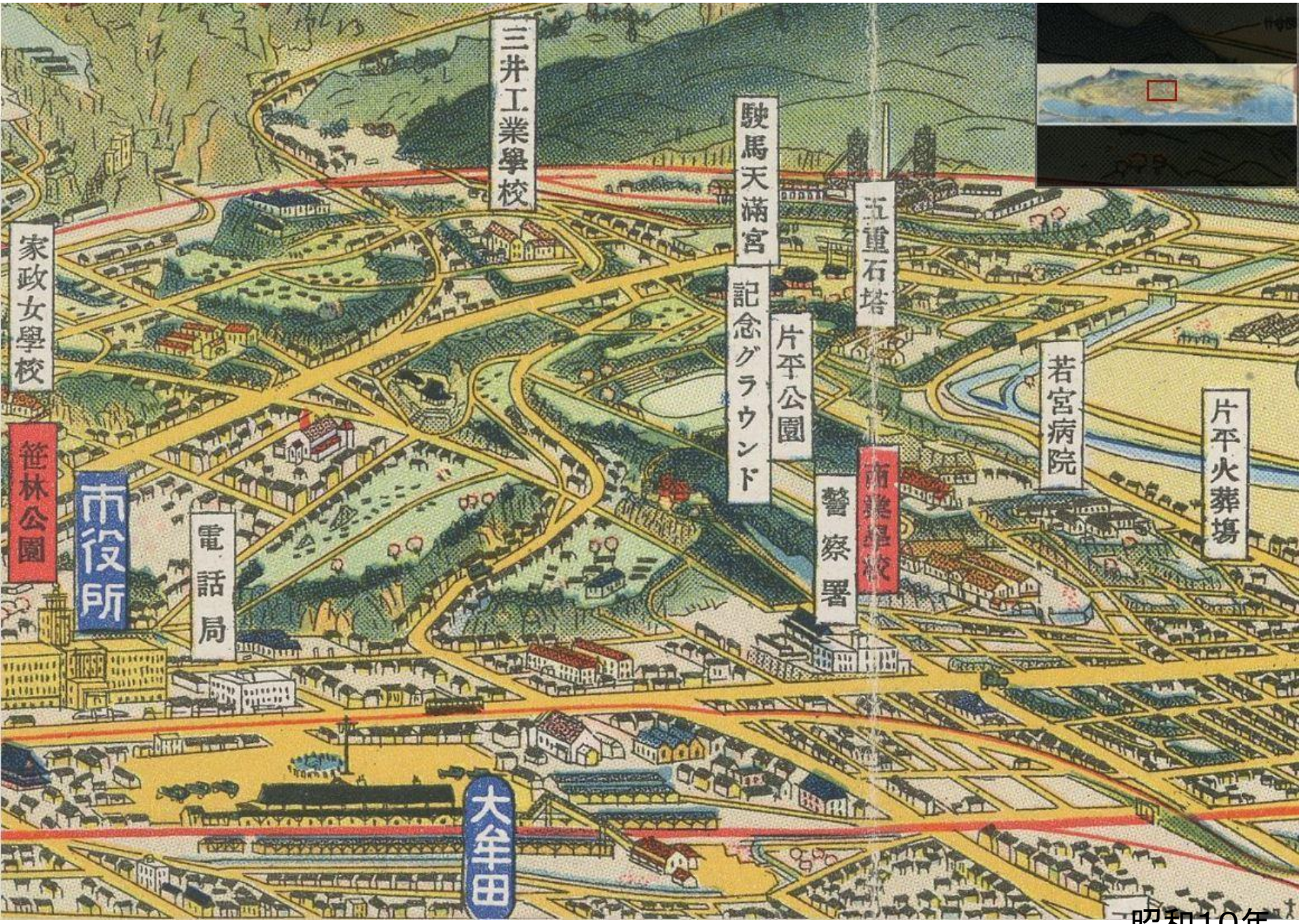


昭和35年

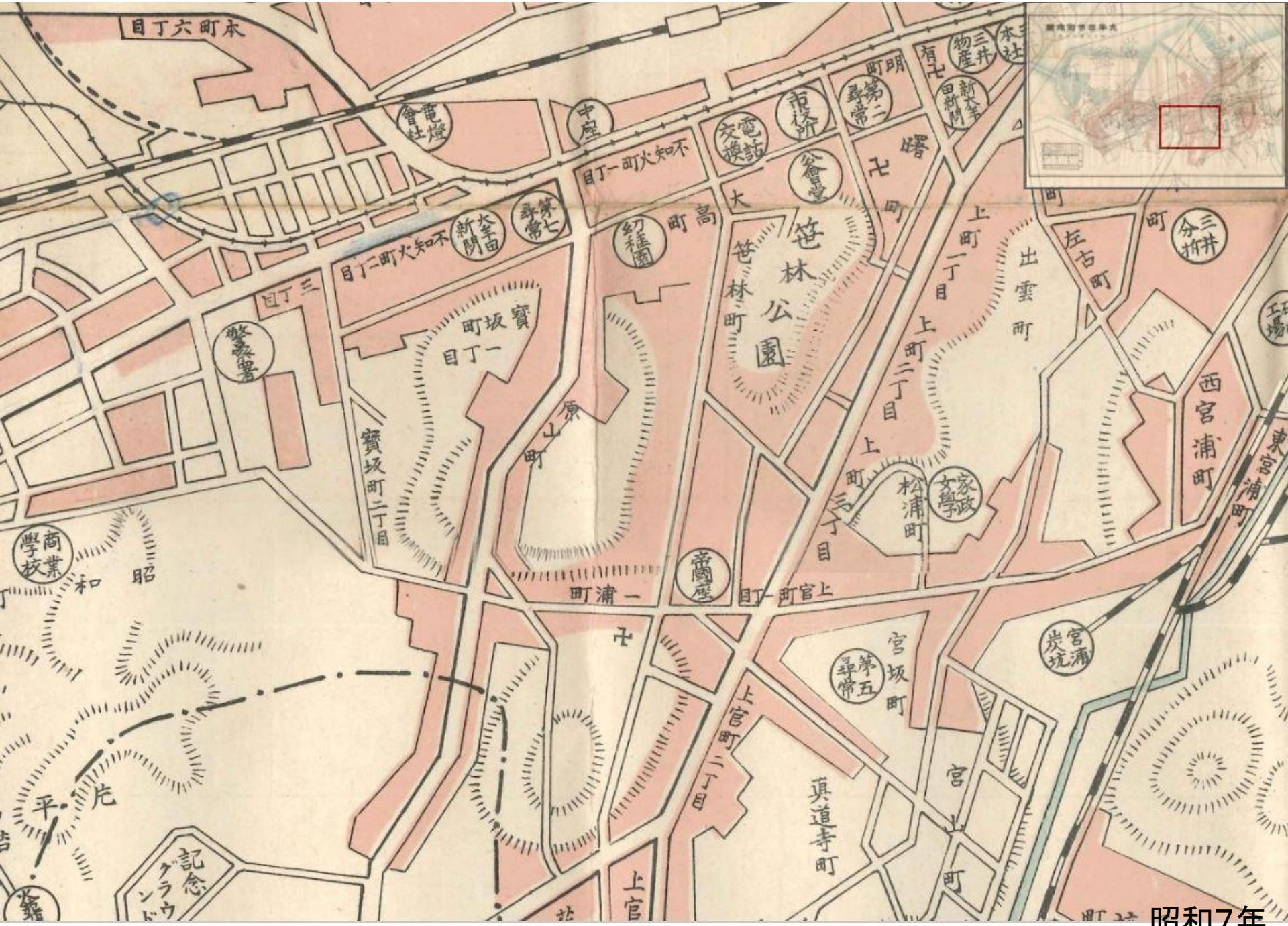
大阪田
大博覧会
⑥松屋
夕刊フクニチ
大阪田
大博覧会
④松屋


たむほな
知不火町
知不火町(二)
知不火町(一)
知不火町(三)
一丁目
高大町
坂定町(一)
坂定町(二)
坂定町
原山町
原山
電化社庁
菊水学院
村尾病院
松尾株式店
高木医院
昭和劇場
前駅
前停車場
公会堂
郵便局
病院
公園
曙町
三丁目
二丁目
浦

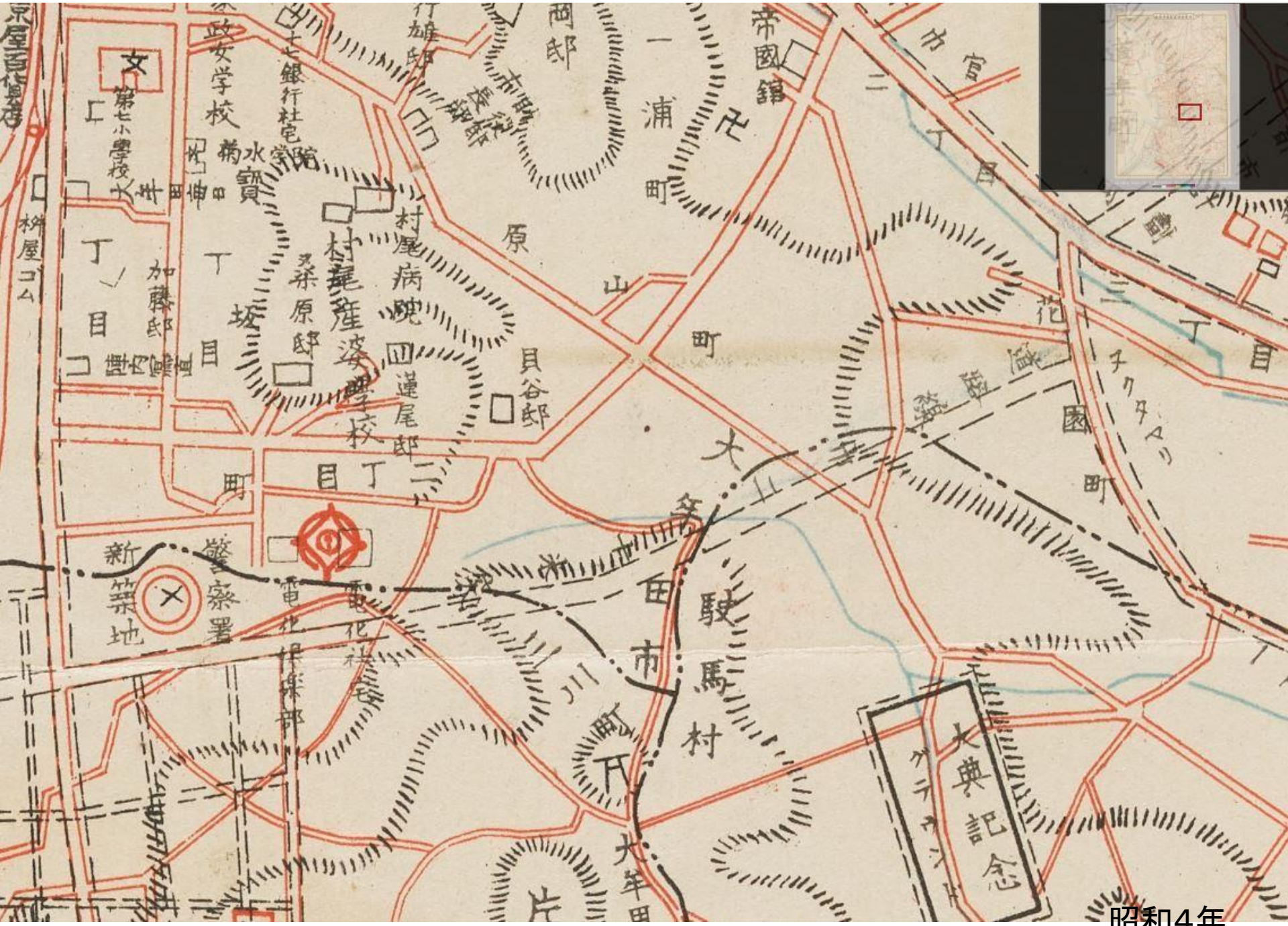
昭和11年


三井工業學校
駿馬天滿宮
記念グラウンド
片平公園
五重石塔
家政女學校
笹林公園
市役所
電話局
警察署
若宮病院
片平火葬場
大牟田

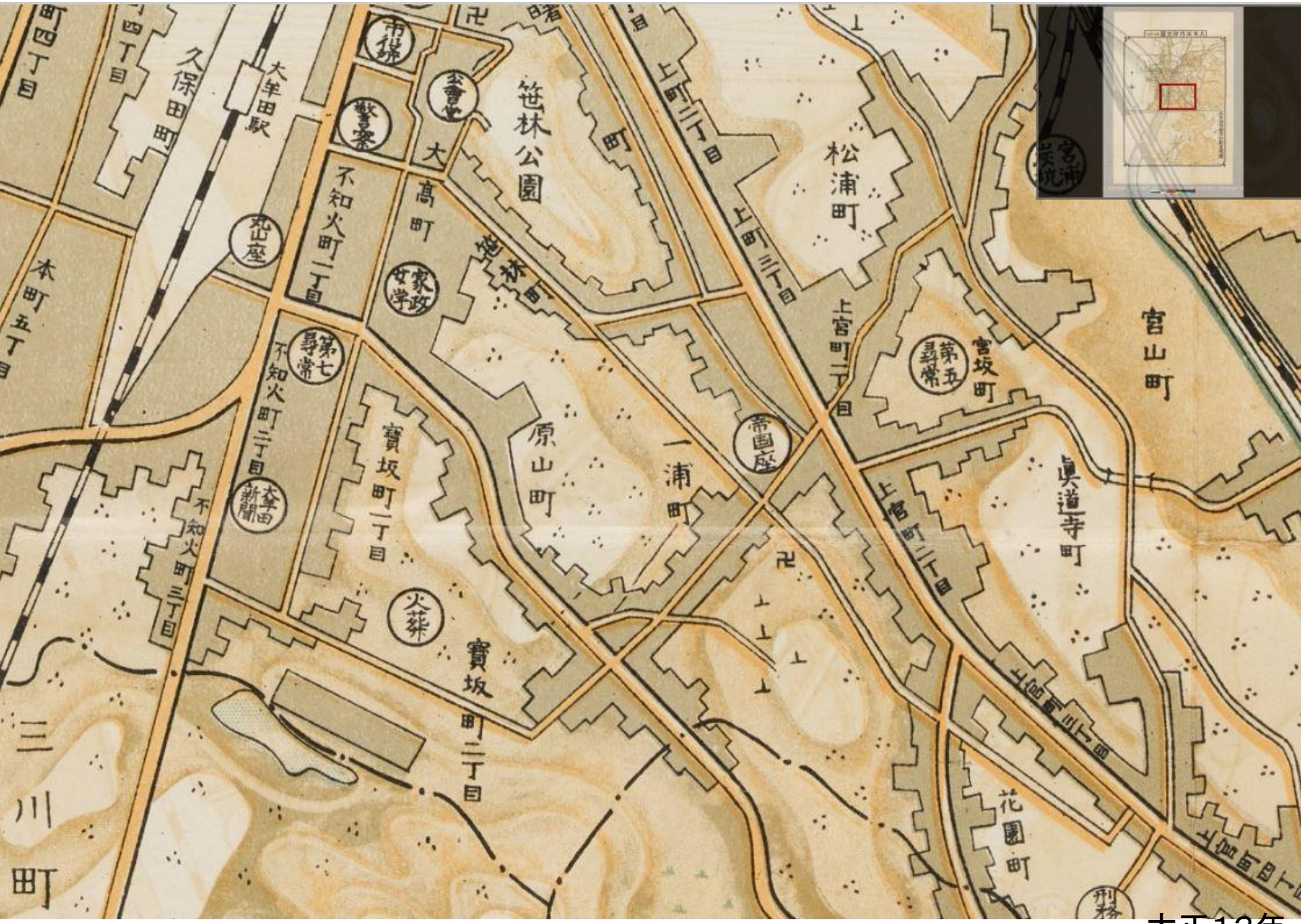
昭和10年


本町六丁目
電燈会社
中座
電話交換
市役所
第二尋常
明町
三井物産
新大手田新聞
本社
有
不知火町一丁目
不知火町二丁目
第七尋常
大手田新聞
高町
幼稚園
笹林公園
笹林町
上町一丁目
上町二丁目
上町三丁目
出雲町
左古町
三井分所
工場
寶坂町一丁目
寶坂町二丁目
警察署
原山町
松浦町
家政女學
西宮浦町
東宮浦町
商業學校
昭和
一浦町
上宮町一丁目
帝國座
宮坂町
第五尋常
宮浦炭坑
上宮町二丁目
眞道寺町
宮山町
記念グラウンド
平尾

昭和7年


第七小學校
政安学校
水寶
村尾産婆學校
村尾病院
桑原邸
蓮尾邸
貝谷邸
加藤邸
一浦町
原
山
町
帝國館
市官
二丁目
三丁目
花園町
大正
駿馬村
大典記念
新築地
警察署
電化社
電化倶楽部
坂
丁目
町
片
大年

昭和４年

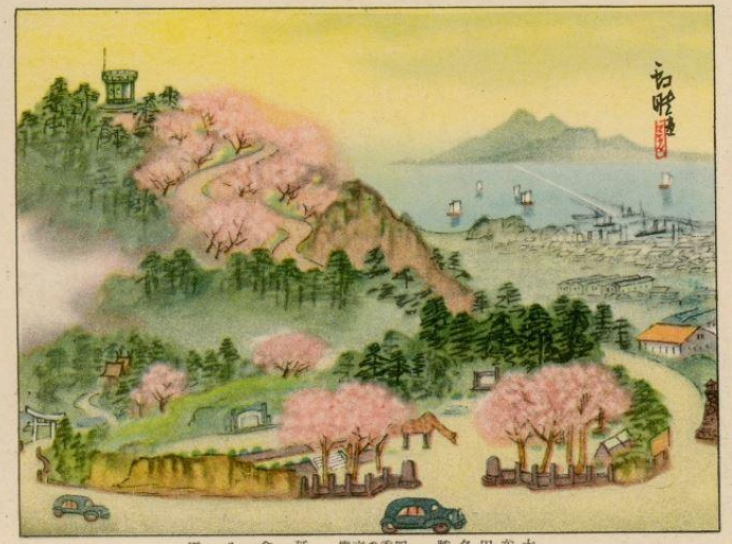

久保田町
大牟田駅
笹林公園
松浦町
宮山町
宮坂町
眞道寺町
原山町
一浦町
寶坂町
寶坂町二丁目
不知火町二丁目
不知火町三丁目
高町
本町五丁目
三川町
花園町
上町三丁目
上宮町二丁目
上宮町三丁目
上宮町四丁目
帝國座
丸山座
家政女学
第七尋常
第五尋常
火葬
警察
市役所
公會堂
大牟田新聞

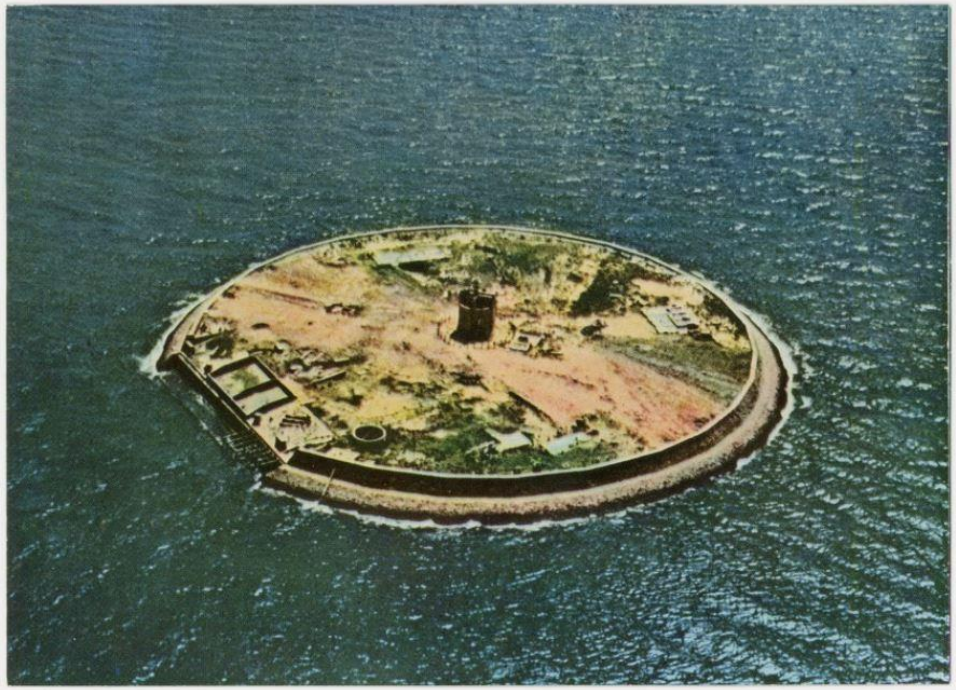
大正13年

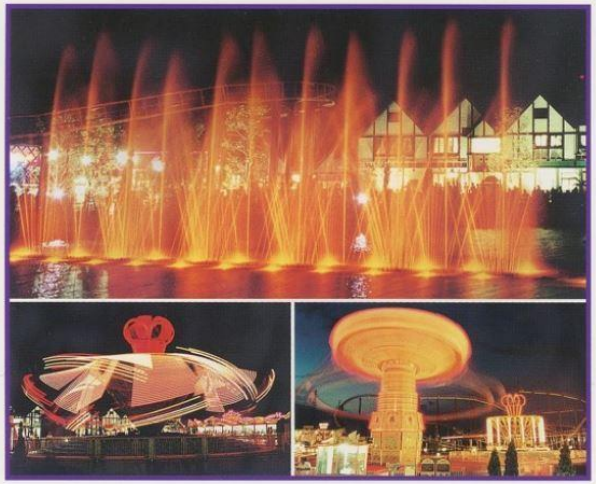
絵はがき

・三池炭鉱関係絵葉書［1］　15枚
・　〃　［2］　11枚
・三池炭鉱絵ハガキ　11枚
・　〃　9枚
・絵はがき［1］　10枚
・　〃　［2］　3枚
・　〃　［3］　3枚
・　〃　［4］　4枚
・　〃　［5］　2枚
・　〃　［6］　2枚
・絵はがき「大牟田市庁舎新築」　1枚
・炭都大牟田　8枚
・ふるさと大牟田版画10景　10枚
・大牟田めぐり　6枚
・おおむた　10枚
・大牟田市制十年記念国産共進会　2枚　計107枚

三池港閘門


大牟田名勝　四季の交樂　延命公園




ネイブルランド

人物

躍進の大牟田　事業と人物（昭和25年・1950年）

大牟田各界職業別人名名鑑（昭和26年・1951年）

三池争議関係資料

組合ビラなど　686点
（主に昭和34～35年・1959～1960年）

大牟田商工會議所
常務理事　梅野一氏

大牟田市柿園町一丁目
電　会議所三二五一番

昭和一千五年三月、改組後の大牟田商工会議所常務理事として、多くの自他薦候補者の中から選ばれた梅野一氏は、昭和六年東京帝大法科を出たチャキ〳〵の法學士、一見温厚で物腰りもよく、組し易い人のやうだが、いわゆる外柔内剛の性質でここぞ、と思ふところでは一寸も後へひかない信念と果断の人である、帝大卒業後、昭和十二年に渡満し、新京特別市税務課長として税務行政の第一線で活躍、ついで昭和十五年專賣總局に移つて塩業課長に拔かれ、昭和十七年には更に轉進して經濟部參事官兼、司法部參事官となり中央行政の樞機に參劃した、翌十八年には又專賣總局に歸へり、總務課長として總局長を補佐し、ついで經濟部化學司無機科長に轉じ終戦を迎へた、以上の經歴が示すやうに、氏は税務、專賣畑の官僚出身であるが、官僚の古手に通有の官僚臭のない無垢な性格である、内地に引揚げたのは昭和二十一年で、会議所入りするまでは内部無輩大牟田支店の總務課長として實業界で活躍してゐた、その頃から機会あるごとに〻梅野〻の名があちこちの会合で持出されてゐたもので、改組後の大牟田商工会議所に常務理事として迎へられ、復興再建期にある炭都商工業界の東道として、手腕を揮ふ機会を與へられたのは落付くところに落付いた感じである、小川会頭を扶けて会議所の運營に當る氏の今後の活躍は一般に期待されてゐる、氏は今年四十三才、福岡縣筑紫郡二日市の出身で、家族は夫人のトシさん(三七)長男の康一さん(一一)長女の郁子さん(一三)の三人、現住所は大牟田市柿園町一丁目一番地

映畫常設太陽館
新協電氣株式會社
社長　林田壽一氏

大牟田市大正町一丁目
電　二三〇四番

荒涼たる炭の都大牟田の地に、他に先んじて映畫常設太陽館を建設し、本地方における映畫興業界の先覺者として重きをなした故林田滝十郎氏の後を承け、太陽館の經營に治んどその半生を捧げた林田壽一氏は、スツキリした映畫館スマートなふんい氣で、靜かに映畫を親で貰ふ事で、上品にサーグイスする事を念願としてゐる大牟田における映畫文化の第一人者。戦災で焼けた太陽館を終戦後、いち早く復興したが、建物と言ひ、内部の設備と言ひ、垢抜けのした落付きはさこそとうなづかれる。客席の椅子も、連座式からこの樣單座式に改裝、戦災前の旧態に復したが、映寫の鮮明、トーキーの明瞭さも断然光つてゐる。

氏は潔癖で短氣で、一徹な性格だけに曲つた事は大の嫌い。その上、氣まぐれに育つて來たためか、妥協も嫌いで、言ひ出したら後に引かない性格でもある。今年四十九才年の故か、短氣は幾分緩和したやうだが、潔癖と一徹さは年とともに益々旺盛である。日大經濟部出身のもと經理中尉で大東亞戦にも動員された。最近では長男の隆氏を副社長に据へて經營の一半を舞當させ、自身は電氣工事請負会社、新協電氣株式会社を創立して社長に就任、旭町一丁目に事務所を設けてゐる。昭和二十四年一月の創立で、資本金二十万円。氏の特色は、先代が市議商議として政界に進出してゐたにも拘らず、自身は一切政治に関係せず、終始映畫文化と事業に專念する点で、氏の強みも實にここにあると言へる。

本社大牟田市大正町一丁目二〇番地、現住所鳥堀町一六一番地。

商標 登録

天下一品

古い傳統と最新の技術を誇る

だるまわた

脱脂綿は 最も衛生的な

地球印

地球印 薬局方

だるまわた合名會社

大牟田市明治町一丁目

電話3119・3745（夜間專用2054）

大牟田商工會議所

大牟田市有明町一の二

電話 三二五番 三二五番 三二一番

三池新労組結成までの経緯

かさねて眞相を訴えます

市民の皆様
労働者の皆様　私共は徒らに組織の混乱を招くような分裂を好むものではありません。労働組合は団結することによって、強い力を発揮出来ることは長い間の体験として充分知っております。しかるになぜ新しい労働組合を結成しなければならなかったかその経緯を訴え、より一層皆様の御理解を御願ひするものです。

※　空恐しそうな過去の五年間

特定政黨員による組合支配

日本最強を自他共に許す三鉱労組は一部の社会党員による強権支配によって成立していたのです。それは組合員のためにある組合ではなく、向坂理論に奉仕し、それに反対するものはすべて異端者であり、会社の手先というレッテルをはられて、ひどい目にあって来たのが実態であります。然も民主的な選挙によって選出された幹部も、社会党員で妻が炭婦協の会員でなければならぬ。と言う空気を充満させたため立身出世主義者は続々と社会党に入党して現組合幹部を占めています。組合はイデオロギーに依って団結するものではありません。従って意見は夫々違っております。ところが特定理論に反対し、少しでも組合に不利な発言をすると、忽ち、反動、裏切者と、驚倒されました。

※　統制に名を借りた人権侵害

組合運動にある程度の統制が必要なことは申すまでもありませんが、必要以上の統制は人権を侵かすものです。
三池炭鉱の斗争は鉄の統制と言われる位、組合員や、その家族に対する締め付は厳しいものでありましたが、今度の斗いにおいては益々強化され、地域分会長の許可なくしては社宅からの外出も許されず、組合員による尾行、監視は公然と行われ、深夜の人員点検、早朝の点呼、と迫ひ打をかけ、不在者を裏切者扱いにしたり、斗争批判を行うものには大衆説得と言う名で吊し上げ、脅迫、暴行を行ひました。こういう状態のなかで真実を求める組合員はたえがたきをたえ、組合運動の民主化を期待し批判を続けて来ましたが、絶対多数の前には我々の願ひは犬の遠ぼえに外ならず、逆に反動分子の烙印をおされるのみでした。かゝる状況では、民主々義の行方さえも危くなり、一部幹部によって攪乱されるだけでは組合運動の自滅さえ必至であるとし、勇気をふるいおこして抵抗をはじめました。

※　約束を履行しない旧労幹部

日に日に組合の弾圧は強くなり、真実を求める批判者も秘密裡に活動せざるを得なかったが、中央委員六十九名は、三月十一日中央委員会開催を要請しました。その際久保田副組合長、灰原書記長は組合規約による民主的な手続であるから、不当な圧力をきけ、デモ、吊上げ等のないように平和的にことを運ぶことを約束したにもかゝわらず、十二日には中央委員会開催要請の委員（上本氏）を外泊したという理由で一、〇〇〇名近くの大衆動員のなかで吊上げられ、室内は土足でゾミにじられ、障子、ブスマ等を破壊されました。前日約束してくれたのに翌日はその約束は完全にふみにじられてしまいました。

※　全く無視された私共の主張

三月十五日、中央委員会開催する直前、宮川組合長と阿吳現委員は事態収拾をはかるため中央委員会を休憩して執行委員会を開き、批判派の要望を充分とり入れ、中央委員会にはかる前に打合せするから退場しないでくれと申入れて来たので菊川氏もそのようにしてくれるなら、退場など考えないと約束しました。ところが宮川組合長はこの重大な約束を果さず、再開後の中央委員会では「みなさんの審議にお任せします。」と責任を回避し、私共が提案した、斗争路線の変更について全組合員の無記名投票を行い意志の再確認を求めるよう、再三再四に亘る厳にも一片の誠意すら示さず事態を収拾する誠意は毫も見出すことが出来なかったのであります。

※　無暴なる除名処分

遂に私共は総退場し、三鉱労組の組織の枠内で「刷新同盟」を作り反省を求めましたが、「旧労組」はそれすらもあたかも第二組合の如く宣伝し、宮川組合長は「批判分子が出ていってスッキリした。これで統一と団結で斗争がくめる」と放言しています。組合組織のなかでいろいろ諸会派があることは今日では常識です。三鉱労組にも社会党職場協議会なるものがあって、社会党員グループの討議のもとに組合路線が誘導されています。こういうことは一切目をつぶり、私共が作った刷新同盟だけを攻撃し、倒するのは筋違いであります。
非党は「中央委会場に帰って充分話し合おう」とねばり強く交渉したといいますが、その事実は全くありません。たゞ四山支部長木村氏が市民館の裏口から線路を渡って形式的に中央委会場に帰る様に言いましたが、それ以上のことは一言もありません。旧労組は「話し合おう」という既成事実を作為的につくろうとしたゞけであります。真実その意志があるなら組織内の「同盟組織」ですからそれこそ結り強く十五日に限らず、何日もそのキッカケを作るべきでしょう。代議員総会も最高機関としてあるのです。ところが作為的操作は行なっても誠意がないことは直ちに暴露しました。同日、直ちに「刷新同盟」加盟の中央委員等八〇余名を除名処分に附したのです。ストを破りでもないし、又何等不当な事実がないのに組合最高の除名処分に附すとは、一体何たる狂暴なことでしょうか。
又総評、炭労から二、〇〇〇名のオルグ派遣を要請、大弾圧を行なうことにしたのです。組合内の意見の異なるものに対して大衆説得の名をかつて暴力的吊上げをやることを計画したのです。こういう事態のなかで、ジッとして組織内の「刷新同盟」の運動では、三鉱労組を組合員の手にとり返し、組合員のための組合に解放するとこは、全く納得せざるをえなかったのです。

※　たくましく前進する新労組

新労組結成までの内容と考え方を述べて来ました。全体主義的統制を排除し、真実の大衆の声のなかに真実を追求していく過程こそが民主的組合の在り方だと思います。
自由と民主主義のないところには自滅あるのみです。私共は新労こそが、正しい組合運動を発展させる力だと信じています。
新労組は結成当日三、〇六五名で出発致しましたが僅か一ケ月半たらずで五、三〇〇名の加入人員となっています。
市民の皆様
労働者の皆様　事実をみきわめて下さい。そして私共の真意を充分御理解頂いて絶大なる御協力と御支援をお願いします

一九六〇年五月十一日

三池炭鉱新労働組合

「 三池炭鉱歴史資料デジタルアーカイブ 」が公開されたことにより期待される効果

- 資料（史料）所在情報の共有化
- 時間・空間を超えたアクセス可能性の提供
- 資料（史料）の保存と活用の両立

⇓

これらこそ公共図書館の究極の役割

⇓

「大牟田市立図書館」の存在と取り組みの顕示
リスペクトの獲得と復権